

【ちびアコちゃんと私の生活】

どら焼きパンケーキ中佐

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ヘレンの森のシノさんと妖精さんちびアコちゃん達のほのぼのコーデイ?ー()

目次

【ちびアコちゃんと私の生活】	1
【ちびアコちゃんと私の生活再び 再会のシラサギの街】《ちびアコちゃんシリーズ第二期》	5
【ちびアコちゃんと私の安らぎの地 カナリアの街 ちびアコちゃんシリーズ】第三期	21
【ちびアコちゃんと私の生活 ふたたび ヘレンの森にようこそ♪】《ちびアコちゃんシリーズ》第四期	40
【ちびアコちゃん達と私とみんなでアレシマの都に来ました♪】《ちびアコちゃんシリーズ》第五期	52

【ちびアコちゃんと私の生活】

第一話 シノさんとちびアコちゃんの出逢い

イヅルマ地方のシノさんは、村外れにあるヘレンの森に住んでいます。

ある日シノさんは女神の泉に水を汲みに行きました。

すると、林の陰から小さな可愛い生き物が現れました。

シノ「きやふん！あなた達なんなの？」

???「私達、ちびアコ!!？あなたは？」

シノ「きやふん！喋った!!？ゴホンツ!!？ちびアコちゃんと言うの？」

ちびアコちゃん「うん！私達ちびアコちゃん♪」

シノ「私は一人だし、あなた達が良かったら一緒に暮らさない？私はシノよ♪」

ちびアコちゃん「うん♪シノちゃん♪」

こうして偶然の出逢いから、シノとちびアコちゃんの生活は始まったのです。

(つづく)

第二話

ヘレンの森でちびアコちゃんと出逢ったシノさんは、自宅のあるエル林に向かって帰ることにしました。

ちびアコちゃん「シノちゃん♪シノちゃん♪あくそぼく♪」

シノ「ちびアコちゃん、おとなしくして〜(泣)」

ちびアコちゃん達は、自由奔放にキノコを採取したり、花を愛でたり、シノさんの髪をポニテにしたりとやりたい放題です(泣)

シノ「ちびアコちゃん達止めれ〜！」

ちびアコちゃん「シノちゃん、嫌？ぐすん…。」

シノ「ちびアコちゃん、泣かないで〜！私はポニテにされてもいいから！」

ちびアコちゃん「わ〜い♪シノちゃんだいすき!!?」

シノ【やれやれ… あやすのって大変なのね。けれど、ちびアコちゃんのおかげで私は一人じゃないわ♪】

シノ「ちびアコちゃん達〜♪お家に帰ってから、手洗い・うがいしてまた来ましようね〜♪」

ちびアコちゃん「は〜い♪シノお姉ちゃん♪」

シノさんは、ちびアコちゃんから、シノお姉ちゃんの称号を午前6時39分に獲得しました!!?

(つづく)

第三話

シノさんは、今日もヘレンの森にある女神の泉に水を汲みに行きました。

シノ「なんだか雲行きが悪くなつて来たわねえ。ちびアコちゃんにお留守番してもらったけど早く帰ってあげなくちゃ！」

シノさんは急いで帰宅を始めましたが、天候は悪化して大雨になりました。

シノさんはずぶ濡れです (泣)

シノさんはおもいきり風邪をひきました。

ちびアコちゃん「シノちゃん、大丈夫?ぐすん。シノちゃんの看病、ちびアコちゃん達がする〜！」

ちびアコちゃん達は、シノの氷嚢をウンシヨウンシヨとみんなで運んで取り替えたり、ウンシヨウンシヨとみんなでシノの汗を拭いたりして、それはそれは熱心に看病をしてあげました。

その甲斐あってシノはすっかり元気になりました。

シノ「ちびアコちゃん〜!!?あびがどぶう〜 (泣) ぐすん (泣)」

ちびアコちゃん「シノちゃんだいすき〜♪だから泣かないで〜♪ちびアコちゃん達と遊ぼう〜♪」

シノ「ぐすん。うふふ!!?わかったわ♪遊びましょ〜♪」

シノさんは子供と遊んだ経験がほとんどありませんでしたが、ちびアコちゃん達とは自然に遊ぶことが出来ました。

シノさんにも、ちびアコちゃん達への特別な愛着が芽生えたようです〜♪

(つづく)

第四話(最終回)

ヘレンの森のエル林にあるシノさんのお家には、可愛い生き物ちびアコちゃん達が一緒に暮らしています。

今日もシノさんとちびアコちゃん達の微笑ましい光景が繰り広げられています。

笑いの絶えない幸せな日々が続きました。

シノさんはふと思いました。

シノ(なんで、ちびアコちゃん達は私のところに現れてくれたのかしら?)

シノさんの疑問は、それ自体が答えなのでした。

ちびアコちゃん「ぐすん。シノちゃんだいすき。ぐすん。だけどお別れなの。ヘレンの森の長老様がかえってきなさいって言うの〜。

ぐすん(泣)ぐすん(泣)ぐすん(泣)」

シノ「ちびアコちゃん〜(泣)ぐすん(泣)ぐすん(泣)ぐすん(泣)ぐすん」

ちびアコちゃん「シノちゃん、ず〜っと一人でがんばってたの〜。ちびアコちゃんが長老様をお願いしたの〜。シノちゃんがいって言ったら、しばらく一緒に暮らしていいよって〜。だからシノちゃんだいすき。ぐすん。シノちゃんと離れたくないよ。お別れしたくないの〜。だけどお別れなの。ヘレンの森の約束なの〜。今までありがとうなの〜(泣)ぐすん」

シノ「ぐすん。ちびアコちゃん〜!ありがとう!!?ちびアコちゃん

達と暮らした日々はちびアコちゃん達が私にくれた何よりのお礼よ!!?。」

シノさんもちびアコちゃん達も涙がとまりません。

ちびアコちゃん「シノちゃん、目を閉じるの〜♪」

シノ「閉じたわよ?。」

ちびアコちゃん達「シノちゃんだ〜い好き??。」

シノさんが目を開けるとちびアコちゃん達はもう居ませんでした。

でも、シノさんの心にはいつもちびアコちゃん達の微笑ましい想い出があります。

それは、いつもがんばっているシノさんへのヘレンの森のちびアコちゃん達からのお礼だったのです。

(おしまい)

「ちびアコちゃん」と私の生活再び 再会のシラサギの街】《ちびアコちゃんシリーズ第二期》

第一話

私はシノ、ちびアコちゃんとかちよつぴりセツナイお別れをしてからようやく決心して、ヘレンの森を出ることにしました。

ヘレンの森を出たのはよかったです、行く当てが特にある訳でもなかった、近場のシラサギの街になんとかたどり着くことができました。

シノ「ぐすん… ううん、シノ！この位で挫けちゃ駄目よ!!？」

私は自らを強く鼓舞しました。

なんとか住み込みで働かせてくれる宿屋に雇ってもらえた私は、これからシラサギの街で暮らして行くことになる部屋の扉を開けました。

すると……………

ちびアコちゃん「シノちゃんだいすき ♡???また逢えたの♪探したの♪ヘレンの森をシノちゃん卒業したからちびアコちゃん達またシノちゃんと一緒なの♪」

私はどんな顔をしていたのでしょうか？

多分、涙と鼻水でぐしゃぐしゃの他人様にはとても見せられない顔だったに違いありません。

けど、そんなことよりも……………

シノ「ぐすん… 私だってちびアコちゃんだいすき ♡??? よく♪本
当に逢いたかったんだ〜(泣)ぐすん…」

ちびアコちゃん「シノちゃん、泣かないで〜♪」

シノ「ちびアコちゃんも泣かないで〜♪」

みんな「うふふ♪あはは♪だ〜い好き??」

私はシラサギの街でまた、ちびアコちゃんに出逢えました!!?

ヘレンの森の長老様ありがとうございます!!?

私とちびアコちゃん達のシラサギの街での新しい生活が幕を開け
ようとしています!!?

ちびアコちゃん「シノちゃん、これからはずっと一緒にの〜♪」

シノ「うふふ♪またよろしくね〜♪」

(つづく)

第二話

私はちびアコちゃんと一緒に眠りました!!?

そして、朝になりました。

宿屋の女将さん「シノちゃん、それとそこの不思議なちびアコちゃ
んだったかしら? 今日からガンガン働いてもらうよ〜♪」

女将さんは、行くあての無いシノさんを住み込みで働かせてくれる
ばかりか、ちびアコちゃんにも理解のある人格者でした♪

宿屋と言ってもこの宿屋は、ユーハングの影響を受けている感じの
所謂、旅館です。

女将さん「シノちゃん、このパンケーキと一緒にマミヤ印のどら焼
きをあちらのお客様にお運びしてちょうだい!」

シノ「はい!!?女将さん」

はりきって働くシノさんのポケットの中で、ちびアコちゃん達はすやすやと寝息をしながらお休みしています??

ちびアコちゃん「むにやむにや、シノちゃん頑張ってるなの♪けど無理しちゃ駄目なの(泣)ぐすん...」

ちびアコちゃん達はシノさんのどんな感じの夢を見ているのでしょうか?

シノ「うふふ♪ありがとう♪ちびアコちゃん♪」

シノ「お客様、お待たせ致しました。パンケーキと、どら焼きでございます」

????「おう!ありがとう!!?私はどら焼き。あっちがパンケーキな」
????「ナツオ班長!あっちじゃないよ!!?キリエだよ!!?」

どら焼きのお客様はナツオ班長さん。

パンケーキのお客様はキリエさんとわかりました。

ちびアコちゃん「シノちゃん、おいしい香りがするの♪」

ナツオ「可愛い??」

キリエ「ナツオ班長?」

ナツオ班長さんは、可愛いもの好きな方のようにです。見た目は幼い感じですが、キリエさんより年上のようです。

ナツオ「ほれほれ??ツンツン??」

ちびアコちゃん「シノちゃん、助けてなの!」

シノ「お客様、お気持ちは凄くわかりました。ですがちびアコちゃ

ん達も従業員ですのでとりあえずお控えくださいませ♪」

ナツオ「ハッ！可愛いから夢中になっちまった！いやあ、すまなかつた！ゴメンよ!!？ちびアコちゃん達もゴメンよろ♪」

キリエ「ナツオ班長は私達には結構な塩対応なのにくー！」

ナツオ「ああー」

キリエ「何でもありません!!？」

お二人は、初めてこの宿屋にお泊まりされたそうですが、ナツオ様は、ちびアコちゃんとどら焼きをお気に入りされたようです。

キリエ様も、この宿屋のパンケーキはリリコさんの次に美味しい!!？とお気に入りされたようです。

お二人は、また来ると言われてチェックアウトされました。

女将さん「シノちゃん、ちびアコちゃんやるじゃないの！初めてのお客様がまた来るなんておっしゃるのは稀なことなのよ!!？いい初仕事だよ!!？これあげるからあがつて部屋で一緒に食べなよ!!？」

シノさんとちびアコちゃんは部屋に戻りました。

女将さんから渡された袋の中には、沢山のイチゴが入っていました!!？

ちびアコちゃん「イチゴ??イチゴ??イチゴ??イチゴ??イチゴ??イチゴ??イチゴ??」

シノ「うふふ♪ちびアコちゃんはイチゴ??なのね♪」

シノさんとちびアコちゃん達は、仲良くイチゴを食べました。

シノさんとちびアコちゃん達はシラサギの街で暮らしていけそうです♪

(つづく)

第三話

今日は、日頃の働きぶりにシノさんとちびアコちゃん達の意気を汲んでくれた女将さんが、休日をくれました。

シノさんもちびアコちゃんも、ヘレンの森の育ちでそれほど都会ではない、このシラサギの街でも十二分に都会でした。

シノ「休日をいただいたけど、何をしたらいいのかしら？」

ちびアコちゃん「イチゴ??イチゴ??イチゴ??」

シノ「ちびアコちゃん達?ゴメンナサイ!イチゴはとっても高級なフルーツなの(泣)」

ちびアコちゃん達「残念なの(泣)」

そうこうしていたら、「リツタ食材堂」というお店を見つけました。

リツタ「おや?お姉さん見たところ私以上のお上りさんですか?そんなしよげた顔しちや美人も台無し!このユーハング由来の【ミカン】食べて元気出しな!!?」

多分店主代理のリツタちゃんから【ミカン】をもらいました。

シノ「みんなと一緒に食べましょう♪」

ちびアコちゃん達「わくわく♪なの♪」

シノさんは、ちびアコちゃん達の食べやすいサイズに【ミカン】を剥いてちびアコちゃん達にあげました。

ちびアコちゃん達「美味しい!!?なの♪イチゴ??の次に【ミカン】美味しい!!?なの♪」

シノ「うふ♪またあのお店に行ったら、リツタさんにお礼を言って、今度は買いましょうね♪」

それから数日後、シノさんとちびアコちゃん達は【リツタ食材堂】に

お礼に行きました。

リツタ「おや？お姉さんとちびアコちゃん達。え？お礼？ご丁寧にありがとうございます〜♪しかも、「ミカン」を買ってくださいるのですか♪ユーハング由来のフルーツで栽培に仲間が苦勞して商品化したんです!!？」

シノ「ちびアコちゃん達、リツタさんにありがとうございますの礼を言わなきやダメよ〜♪」

ちびアコちゃん達「リツタちゃんありがとうございますなの〜♪」
リツタ「ちびアコちゃん達、偉いね〜??」

結局リツタさんは、沢山おまけしてくれました。

ちびアコちゃん達「ミカン」いっぱいな〜♪重いなの〜(泣)「嬉しいけれど、涙するちびアコちゃんを見て、シノさんは、

シノ「シラサギの街の人はみんな人情味溢れる人達が集まる街なのね!!？」

と、感心しきりでした。

シラサギの街、いいところですよ〜♪

(つづく)

第四話

シノさんとちびアコちゃん達がシラサギの街に馴染み出してからいくらか時が経ちました。

シラサギ商店街の店主さん達もお客さん達もとても人情味溢れる人達ばかりでした♪

でした……………

ある日突然にシラサギ商店街からそれほど遠くない場所に大型店
【エリキト】が出店しました。

活気に溢れるシラサギ商店街に閑古鳥が鳴き始めました。

みんながみんなではありません。安さや便利さが人情味よりも上
だということでもありません。

シノさんとちびアコちゃん達は、シラサギ商店街のみんなが大好き
です。

シノ「あの【エリキト】何かがおかしいわ…」

ちびアコちゃん達「シノちゃんどうしたの〜♪」

シノ「うん、ちよつとね…」

ちびアコちゃん達「シノちゃんと一緒に【エリキト】調べるの〜♪
悪いの見つけるの〜♪追い出すの〜♪」

シノ「うふふ♪ちびアコちゃんも私と同じなの〜♪」

それから、女将さんに事情を話したら。

「シラサギの為なら有給休暇にしてあげるよ!!? 徹底的に【エリキト】
を潰してあげなさい!!?」

女将さんも意外に武闘派ですね（笑）

シノさんは理由を付けて【エリキト】の非正規雇用枠で契約社員に
なりました。

内偵開始です〜♪

ところが【エリキト】のお仕事は、余りに忙しくてシノさんは内偵
を忘れて業務に追われてしまう日々を続ける毎日になりました。

ちびアコちゃん達「ちびアコちゃん、シノちゃんの為ならなんとか

しちゃうの〜♪」

ちびアコちゃん達は「備品倉庫」から適当に運び出して使える(?)
道具を選びました。

奇跡的にそれは「エリキト」最新の小型音声録音機『ボイスレコー
ダー』だったのです!!?」

ちびアコちゃん達は、「エリキト」社内(店内)に手当たり次第に設
置しました。

数日後、ちびアコちゃんは小型音声録音機をお仕事で疲れ果ててい
る。目的を忘れて業務に必死だったシノさんに渡しました。

シノ「ちびアコちゃん達、これは?」

ちびアコちゃん達「シノちゃんの為にちびアコちゃん達も頑張った
なの〜♪」

シノ「!!?小型音声録音機じゃない!!?私が最近立ち読みした最新
記事に紹介されていた品物だわ!!?」

シノさんとちびアコちゃんは「エリキト」の社長トリヘイと言われ
ている人に内緒で悪いことをしている人事部長と呼ばれる人が、農家
さんの弱みにつけこんで不当な契約を契約農家にして無理やり値段
を下げたり、店舗出店の最にも、所謂地上げ屋行為をならず者を雇っ
て立ち退きをさせたりしていただくことが、明らかになりました。

これに対して、シノさんとちびアコちゃんは、社長のトリヘイに直
談判しました。

トリヘイ社長は隣のウキヲ工師の女性に促されながら「エリキト」
の不手際をお詫びすると、シラサギの街から撤退しました。

シラサギ商店街に再び人々が集まり、人情味溢れるシラサギ商店街に戻りました!!?

リツタ「シノさんちびアコちゃん達ありがとうございます!!? これ!お礼のイチゴです??」

シノ「リツタさん、こんな高価なイチゴを…」

リツタ「最大功労賞受賞者さん達は大喜びですよ♪ (笑) 可愛い??」

シノ「うふふ♪ありがとう!!? 遠慮なくいただきます♪」

旅館【羽衣】シノの部屋

シノ「ちびアコちゃん達、ありがとうございます♪ さあ!!? イチゴと一緒に食べましょう♪」

ちびアコちゃん達「いただきますなの♪」

シノ「いただきます♪」

みんな「イチゴ?? イチゴ?? イチゴ?? 美味しいなの♪」

シラサギの街は今日も無事に平和です♪

(つづく)

第五話

【エリキト】騒動のゴタゴタも落ち着きを見せたシラサギの街に、風来坊の如く一人のグラマラスな女性が訪れました。

シノ「旅館【羽衣】へようこそいらつしやいました。ご予約の御名前をお伺いしてよろしいでしょうか?」

シノさんは【エリキト】で揉まれた経験が午前10時32分に活きています。

??? 「私はヘレンくぐう…」

シノ「ヘレン様はご予約されていらっしやらないようですが…」

ヘレン「してないよくぐう… この街初めて来たくぐう…」

女将さん「ヘレン様、ようこそシラサギの街へ！素泊まり、相部屋
でよろしければ、今回はお代はいただきませんが如何でしょうか？」

ヘレン「うん、いいよくぐう…」

シノ「女将さん、相部屋の部屋なんてあるんですか？」

女将さん「？あなたの部屋にお泊まりしていただくのよくぐうお願い
ねくぐう」

女将さんは時々ノリが可愛く軽いですくぐう

【シノの部屋】

シノ「ヘレンさん、この娘達はちびアコちゃんです??イチゴ??だい
すきなんですくぐう」

ちびアコちゃん「ちびアコちゃん達イチゴ??だいすきなよくぐう」

ヘレン「うん、イチゴは私も好きだよくぐう… 家はヘレンの森の
更に奥のジョージー牛乳を売りに来たんだよくぐう… 牛乳をイチ
ゴにかけるととても美味しいよくぐうちびアコちゃん達くぐう…」

ちびアコちゃん達「シノちゃん！女将さんに新メニュー提案しちや
うのくぐう」

シノ「【イチゴミルク】！」

シラサギの街にはまだまだ【イチゴミルク】はありませんでした。

シノさんもちびアコちゃん達が提案して気付いたくらいに珍しい
メニューでした。

女将さん「ちびアコちゃん達の【イチゴミルク】良いわね。ヘレン
様、ミルクの鮮度は保証できるかしら？」

ヘレン「【ジョージー牛乳】の看板に賭けて保証します！くぐう…」
ちびアコちゃん達「寝るな！なのくぐう」

シノ「セリフ取らないで♪」

こうして、【ジョージ牛乳】のミルクを、「リツタ食材堂」のイチゴにかける新メニューが出来ました!!?

ちびアコちゃん達はイチゴミルクにおおはしやぎでした??
シノさんは、

シノ「【ジョージ牛乳】を飲んだら、ヘレンさんみたいなグラマラスbodyになれるのかしら?」

と、ちよつぱりヘレンさんと比較してしまつて複雑な心境でした。

ヘレン「シノ、ドンマイ♪」

シノ「ヘレン? 距離感縮めるのはやつ!」

ちびアコちゃん達「お友達が増えて嬉しいなの♪ヘレンちゃんもだいすきな♪よろしくなの♪」

シノ「もう!ちびアコちゃん達つたら。ヘレン、私もよろしくね♪」

ヘレン「シノ、よろしく♪それじゃまたね♪ぐう…」

ヘレンは再びヘレンの森の方へ向かつて行きました。

徐々にですがシラサギの街は発展していました。

(つづく)

第六話

シノさんとちびアコちゃん達は午後2時48分になつても、まだ仕事が残付かなかつたので、ご飯を食べていませんでした…

ちびアコちゃん達「シノちゃん!ちびアコちゃん達おなかペコペコなの♪(泣)」

シノ「私もペコペコよ♪(泣)」

ぐう…ヘレンが寝ているのではありません。

お腹が鳴つたのです。

その時でした。街の群衆を掻き分けながら一人の可憐な感じの女の子が、退治しただろう熊を背負ってこちらに來ます!!?。

??? 「私はミントと申します!!?。貴女とそちらの可憐??で可愛い??ちっちゃな御方達は??」

シノ「私はシノよ。この娘達はちびアコちゃんよろ♪」

ミント「ちびアコちゃん??私に出来ることならなんでもさせてください!!?この拳はちびアコちゃんの為に!!?。」

シノ「アハハ、とりあえず背中 of 熊を食べたいわ」

ちびアコちゃん達「ミントちゃん!ちびアコちゃん達おなかペコペコなの〜(泣) 助けてなの〜(泣)」

ミント「ハッ!」ドゴーン!

ミント「セイツ」ズガーン!

ミント「テイツ」ドゴーン!ズガーン!

熊肉はサイコロステーキのサイズに変わりました。

シノ「はやっ!」

ちびアコちゃん達「ミントちゃん!凄いな の〜♪」

ミント「ありがとうございます??ちびアコお姉様??」

シノ「ちびアコお姉様?。」

ミント「ハッ!何故お姉様??をお付けしたのでしょうか。わかりません」

とにもかくにも、熊肉サイコロステーキをみんな一緒にいただきました。

旅館【羽衣】に守護神ミントさんが加わりました。

ちびアコちゃん達「ミントちゃんよろしくなの〜♪」

ミント「ハッ!ちびアコお姉様??」

シノ「なんなのなの〜♪???

(つづく)

第七話

シラサギの街はシノさんとちびアコちゃん達が色んな人達と仲良くなつていくうちに、益々発展を遂げて行きました。

【リッタ食材堂】とヘレンの【ジョージ牛乳】は本格的に提携をしました。

問題を起こした【エリキト】のトリヘイも心を入れ替えて、姐さんと呼ばれる不思議な女の子のウキヲエを正しく広めるべく、真つ当な商売をするようになりました。

シラサギの街は更なる羽ばたきの片鱗を見せていました。

そんなある日のことでした。

午前9時13分に若い娘がキリツとした表情で笑顔を浮かべながら、疲労困憊で旅館【羽衣】を訪れました。

女将さんが、

女将さん「お待ちしておりました。エル様でございますね。こちらが【特別部屋】のルームキーでございます。わからないことがございましたら、こちらのシノとちびアコに申し付けください」

エル「ありがとうございます…。シノさん、ちびアコちゃん…。お部屋はどこ?」

女将さんは意外と天然ボケパワーを發揮することがあります。

それから、エルが落ち着いてくつろぎ始めたのが午前9時26分のことでした。

エル「ありがとう。シノさんとちびアコちゃん達。私はエル、実は家出中なんです!!?」

シノ「家出!!?」

ちびアコちゃん達「エルちゃん、おうちで嫌なことあったなの〜」
エル「お母様のやり方について行きたくなかったの…」
シノ「エル…」
ちびアコちゃん達「エルちゃん…」

それからほどなくして、エルのお母様がシラサギの街に到着したのです!!?

エルのお母様「シラサギの街の利権書は私が買い占めました。この街の利権書が欲しければ私とエルとエルが選んだ人間が勝負なさい!!?」

エル「お母様!!?やり方が無茶苦茶です!!?お母様は曲げてくたさないでしようから、私とシノが連奏でお相手致します!!?」

シノ「決断はやっ!」

エルのお母様「いいでしょう。勝負は一ヶ月後。せいぜい励みなさい!!?」

エルのお母様は颯爽と帰って行きました。

成り行きで連奏パートナーになってしまったシノにエルは容赦ないスパルタレッスンを課しました。

エル自身がエルにスパルタレッスンを課したので説得力が違いました。

いつもは元気に応援するちびアコちゃん達も息を飲んで、最近開店したユーハング菓子店【マミ屋】のイチゴ大福を静かに食べて見守っていました。

そして、決戦の日が来ました。

エルのお母様は颯爽と演奏を終えて拍手喝采を浴びました。

次はエルとシノの連奏です。

この前まで素人だったシノでしたが、シノは努力の才能の持ち主です!!?

エルのスパルタレッツスはシノを僅か一ヶ月でかなりのレベルにしていました!!?

エルもシノに寄り添いながらハーモニーを紡いでいきます!!?・

おお……………

演奏が終わると周りは静寂に包まれました。

パチパチパチパチパチパチ!

拍手を始めたのは、エルのお母様でした!!?

エルのお母様「エル、シノさん良くやりました。シラサギの街の利権書は約束に従いあげましょう。判定は私が決めると言ってなかったわね?おーほっほっ!!?」

エル「お母様らしいですわ!おーほっほっ!!?」

シノ「この母にしてこの娘ありね…」

こうして、エルのお母様もシラサギの街に出資してくれました!!?

シラサギの街は遂に「カナリアの街」へと名前を改めることになりました!!?

ちびアコちゃん達「おいしいなの〜♪イチゴ大福???だいすき ♡???

なの〜♪【カナリアの街】だいすき ♡???なの〜♪」

みんな「あはは(笑)♪」

【カナリアの街】はこれから更なる羽ばたきを見せることでしょう。

シノ「発展するのはやっ！（笑）♪」

ちびアコちゃん達「はやっ！（笑）なの〜♪」

（おしまい）

次回作に（つづく）

【ちびアコちゃん】と私の安らぎの地 カナリアの街
ちびアコちゃんシリーズ】第三期

【第一話 シノさん、ちびアコちゃんとブティックに行く】

シラサギの街は、発展を遂げて街は【カナリアの街】へと名を新たにしました！

シノさんとちびアコちゃんは、街の方々から御祝いに【好きな品物と引き換え券】をカナリアの街商工会から褒賞としていただいています。

ちびアコちゃん達は、早速使ったみたいです。

ちびアコちゃん達「ママ屋のイチゴどら焼き美味しい♥なの〜♪♥
?♪」

シノ「うふふ♪良かったわね!♪♥ちびアコちゃん達♪」

シノ「さて、私は何に使おうかしら?」

シノさんとちびアコちゃん達がカナリアの街を散策していると【リッタドリームブティック】というお店がオープンしていました。

リッタ「シノさん!!ちびアコちゃん達も!!おはようございます!!午前6時35分は、他のお客様は、いらっしやらないので好きだけ試してみてください!!」

シノ「リッタちゃん。ありがとう」

ちびアコちゃん達「もぐもぐ……ありがとうなの〜♪?」

シノさんは、以前から憧れていたフリフリのドレスを選びました。

シノさんの以外なファッションセンスでした。

リツタ「リツタドリームブティックの初めのお客様がシノさんだなんて光栄です!!おまけの納豆です!!♪」

シノ「?ありがとう」

ちびアコちゃん達「リツタちゃんありがとうございますなの〜♪
♥」

旅館【羽衣】の自室で着替えたシノさんは、ルンルン気分でお出かけにいけます!

ちびアコちゃん達も一緒です。

カナリアの街日和な日常が始まりました!!

(つづく)

第二話

【シノさんとちびアコちゃん。パンケーキとキリエに出逢う】

カナリアの街は商工会と商店街振興組合がしっかり協力している。アットホームな雰囲気が売りな街になりました。

カナリアの街には、各地から腕自慢の人々が毎日のように訪れました。

午後2時20分になりました。

???「お腹と背中がくつつくよ〜……………パンケーキ 食べたいよ〜……………」

ちびアコちゃん達「大丈夫なの〜……………?」

???「大丈夫じゃないよ…キリエだよ…」

シノ「あなた、キリエというのね。とりあえず。旅館【羽衣】に来なさい!」

旅館【羽衣】

女将さん「お代はツケにしておくわね。回収出来ない場合はシノちゃんの負担ね」

女将さんは話のわかる人ですがビジネススライクな場合もある人です。

女将さん「今日から厨房と酒場にジョニーさん。女将さんにリリコさんが加わってくれたから挨拶なさい」

シノ「はい!!女将さん」

ちびアコちゃん達「はい!!女将さんなの〜♪」

シノさん達はふらふらのキリエを酒場まで連れて行きました。
良い香りカナリア漂います。

キリエ「パンケーキ……………」?

リリコ「パンケーキ でございます」

ジョニー「口にあうかな? ((; ; ㇿ (((()))))」

リリコ「奥さんなら認める味なんでしょ」

ジョニーとリリコさんの会話中に酒場いっぱいの歓喜の歌が響き渡りました!!

キリエ「いく〜ぞ〜つとぶ〜きひつ〜た〜い!!きぼ〜のあ〜さがく〜る〜!!あつパンケーキ パンケーキパンケーキ♪♥」?

シノ「キリエさん、酒場の中であまり騒がないでください」

ちびアコちゃん「パンケーキ 美味しそうなの〜♥」

キリエ「おっわかるじゃない♪お名前は?」

ちびアコちゃん達「私達ちびアコちゃんなの〜♪キリエちゃんよろしくなの〜♪パンケーキのお姉ちゃんなの〜♥」

キリエ「私!!パンケーキ……………♥」

シノ「キリエさん、パンケーキ代です」

キリエ「ゲッ!!今月分の報酬の半分が胃袋に……………」

シノ「また、お越しくださいませ!!」

キリエ「うん 今度また仲間と来るよ!!私はコトブキ飛行隊のキリエ!!」

シノ「私はカナリアの街のシノ!!」

ちびアコちゃん達「ちびアコちゃんなの〜♪」

パンケーキと異次元胃袋娘キリエと飛行隊との出逢いでした。

(つづく)

第三話【女将さんの名は。】

シノさんとちびアコちゃんがお世話になっております旅館【羽衣】ですが、シノさんはふと思いました。

シノ「あれ?女将さんの名前知らないわ?」

ちびアコちゃん達「知らないなの〜!!」

疑問に思うシノさんでしたが、お仕事中です。結局後回しにしてしまいました。

そして、忘れてしまいました。

カナリアの街は、飛行機が離発着出来るように飛行場が造られました。

いつぞやのナツオ班長さんも、イナーシャぶん回して張り切って働いてる人の一人です。

そんなカナリア飛行場に一人の議員さんが降り立ちました。

ユーリア議員さんというそうですね。

ユーリア「ルウルウはどこかしら?」

ルウルウ?誰でしょうか?

カナリアの街にルウルウさんがいたか?

と、カナリアの街は騒然としました。

すると、女将さんが【羽衣】から出てきました。

ユーリア「あら、ルウルウ。こんなところにく居たのね」

ルウルウ「はあ、ユーリア。あなたはいつもそうやって周りの人を振り回して……………」

シノ「女将さんのお名前はルウルウさんですか？」

ルウルウ「あら？言つてなかったかしら？」

ユーリア「あなたも大概ね……………」

ちびアコちゃん「大概なの♡」

ユーリア「あら、可愛いわね……………」

ちびアコちゃん「ちびアコちゃんなの♡」

ユーリア「ちびアコちゃんね よろしくね」

シノ「ユーリアさん、御用件は？」

ユーリア「カナリアの街の視察よ!!あなたは？」

シノ「従業員のシノです。ちびアコちゃん達も私の大切な親友であり、同僚です!!」

ユーリア「ルウルウ？頑張りなさい。この娘達が【羽衣】を左右するかもしれないわ」

ルウルウ「あなたに言われるまでもないわ」

ユーリア「あら、そう？」

ユーリア議員は颯爽と大空へとテイクオフされました。

シノ「女将さんの名は。？」

女将さん「旅館【羽衣】女将《ルウルウ》よ」

ちびアコちゃん「なんで誰も知らなかったなの？」

(つづく)

第四話【番頭さんと名誉ドードー支配鳥】

旅館【羽衣】に勤めだしてから、シノさんもちびアコちゃん達もけっこうな時間が経過しました。

シノ「そういえば【羽衣】の番頭さんと支配人は誰なのかしら？」
ちびアコちゃん達「誰なの〜？」

???「番頭は俺なの〜」

シノ「あなたは？」

番頭さん「みんな酷いよ……番頭のサネアツだ。よろしく!!シノ
ちゃんとかちびアコちゃん達♪?」

ちびアコちゃん達「よろしくなの〜♪?」

シノ「番頭さん……」

サネアツ「俺の事は気軽にサネアツでいいよ!!」

シノ「はい!!ところでサネアツさん、この旅館の支配人はどちらに
?」

ちびアコちゃん達「どちらなの〜♪?」

サネアツ「支配人なんて居ないよ!!」

シノさんとかちびアコちゃん達「？」

サネアツ「誤解を招く言い方だったな。支配人は居ない。しかし、
支配鳥はいるんだよ……」

その時でした。サネアツ番頭さんの頭上に大きなドードー鳥がの
しかかって来ました!!

ドードー鳥「グワーツ 《私がドードー名誉支配鳥である》」

シノ「？」

ちびアコちゃん達「私がドードー名誉支配鳥である。って言ってる
なの〜♪?」

シノ「ちびアコちゃん達わかるの？」

ちびアコちゃん達「ちびアコちゃん達へレンの森とお友達なの〜
鳥さんの言葉申し上げますわかるなの〜♪」

サネアツ「ちびアコちゃん達が説明しちゃったか……こちらの御
方が旅館【羽衣】の名誉支配鳥のドードー名誉支配鳥様でございます
!!一同頭が高い控えよ!!」

シノとかちびアコちゃん達「？」

サネアツ「ちゃんとお芝居して!!ドードー名誉支配鳥このくだり好

きだから……………（小声）」

シノとちびアコちゃん達「はは〜!!」

ドードー名誉支配鳥「グワーツ《大儀》」

満足感を漂わせながら飛び去っていった。

シノ「旅館【羽衣】謎だらけね……………」

ちびアコちゃん達「なぞなぞなの〜♪?」

（つづく）

第五話【演歌歌手シアラ様とマネージャーニコさん】

カナリアの街はクリスマスシーズンです!!

商店街振興組合の皆さんは、思い切ってプロ演歌歌手をイベントに招きました。

ゲキテツ蓄音機所属の演歌歌手【シアラ】と言う方です。

シアラ様と呼ばないとヘッドショットするDangerousな演歌歌手さんです……………」

シノ「演歌歌手シアラ様!!【雷電坂】を聴きたいわ♪」

ちびアコちゃん「わからないけど楽しみな〜♪」

シノさんとちびアコちゃんの手持ちのお金ではチケット代が払えそうにありませんでした。

が、

???「可愛い♥可愛い♥可愛い♥その小さな可愛い方は?」

シノ「ちびアコちゃんですよ?貴女は?」

???「私はシアラのマネージャーニコですが……………ちびアコちゃん可愛い♥」

ちびアコちゃん「ニコちゃんありがとうございますなの〜♥」

ニコ《ズキーン!!》「チケットあげるから来てください!!では♪」
シノとちびアコちゃん「ニコちゃんさんありがとうございますなの

♡」

念願叶いチケットを手に入れることが出来ました!!

イベント会場

シアラ「ニコくなんでこんな辺鄙な街でこのシアラ様が歌わなきや
いけないのよ」

ニコ「BOSSの入れた仕事だ」

シアラ「相変わらずあんたはお堅いわく!! まあプロだからやるけど
!!」

ニコ「可愛くない……」

シアラ「なんて?」

二人の喧嘩中に会場の設営は完了しました。

会場

リツタ「本日もありがとうございます!! カナリアの街イベント最大の
ゲスト【シアラ様】です!!

シアラ「皆さん、今日はありがとうございます♡ キャハハ」

リツタ「それでは一曲お願い致します! 【雷電坂】!!

【雷電坂】

Lyrics by どら焼きパンケーキ中佐

シアラ「言いなさい

言いなさい

雷電坂の丘の上

貴方が可愛い

そう 一言

言ってくれると嬉しいと
信じて私

雷電坂の丘の空の上で

雷電に乗って生きてます

言いなさい

言いなさい

雷電坂の丘の上

貴方が可愛い そう一言

言ってくれると嬉しいと

思っって私生きてます

貴方を待って生きてます

雷電坂の丘の上の空

雷電に乗って生きてます

貴方を待って生きてます

貴方が可愛いそう一言

言っってくれるその日まで

信じて私生きてます

雷電坂の丘の空

貴方を待って生きてます

貴方を信じて生きてます」

パチパチパチパチパチパチパチパチパチパチ!!

シアラ「みんなありがとう♡」

シアラはそのあともノリノリで歌いました。

シノさんとちびアコちゃんは満足感いっぱいでした。

会場内

シアラ「ニコくシアラ様は可愛いでしょ♥」

ニコ「可愛くない」

シアラ「言え!!」

ニコ「断わる」

二人が暴れた結果、収益の半分が消えたそうですね。

くわばら くわばら……………

(つづく)

第六話 年忘れのど自慢

カナリアの街はクリスマスを終えて、年忘れの時期になりました。

シノ「もう、年末なのね……………早いわ…………」

ちびアコちゃん達「はやっ!!なのく♥」

ちびアコちゃん達は無邪気にリッタ食材堂のマイちゃんからどら焼きパンケーキをもらって御機嫌です♪

「イチゴどら焼きパンケーキ美味しいなのく♥……………シノちゃん?」

シノ「ううん……………なんでもないわ。それよりちびアコちゃん達!!今日はトキオ広場でのど自慢大会があるのよ!!」

ちびアコちゃん達「自慢なのく?」

シノ「歌を大勢の人の中でお祭りよ!!賞品はイチゴジャムですって!!」

ちびアコちゃん達「シノちゃん頑張ってるなのく♥」

シノ「私の歌を期待しないでね…………」

リッタ「さあさあ!カナリアの街第一回年忘れのど自慢始まるよく

♪リッタ リッタく!!」

へレン「見に来た。聴きに来た。ぐう……………」

リツタ「それでは、エントリーNo. 1《キリエ》さん【パンケーキ慕情】

キリエ

【パンケーキ慕情】

Lyrics by キリエ

生まれたときから
お前が好きと
パンケーキの命を
知りました
胃袋満たした
パンケーキ
私の命
私の命
嗚呼パンケーキ慕情

お客さん《（・|・）wwwwww》

次はエントリーNo. 2《シノさん》

【Pancake longin[g]
Lyrics by Kyrie《Arrangement
by
Shino》

From birth
I like you

Pancake life
I know
Stomach filled
Pancake
My life
My life
Oh pancakes affection

お客さん《ε||／|○ノ ヒヤッホウ!!》

その後も猛者達のもど自慢大会が続きました。
いよいよ、結果発表です!!

リッタ「第一回年忘れのど自慢、栄えある優勝者は、おや？票が同数ですね！

キリエさん、シノさんおめでとうございます!!」

キリエ「シノさん、やるね！私のパンケーキ慕情を更に異国の言葉にするなんて!!」

シノ「旅館【羽衣】の蔵書のエンゲレンス語辞典を読んだだけで……………」

キリエ「努力も実力者の証！パンケーキ!!」

シノ「ありがとうございます！パンケーキ!!」

ちびアコちゃん達「パンケーキ!!なの♡」

リッタ「それでは賞品のプレミアムイチゴどら焼きです!!《イチゴジャム入り!!》」

キリエ「はい!!」

ちびアコちゃん達「キリエちゃんありがとうございますなの♡」

シノ「キリエさん、ありがとうございます!」

キリエ「キリエさんじゃないよ！キリエだよ!!よろしくね!!シノ♪

パンケーキ!!」

シノ「よろしくね!!キリエ!!パンケーキ!!」

ちびアコちゃん達「シノちゃんのお友達増えて嬉しいなの♡パンケーキ♡」

(つづく)

第七話 ちびアコちゃんアコチャンホンポははじめます

シノさんは旅館【羽衣】の業務に追われて燃えています!!

シノ「なんくるないさー!なんくるないさー!なんくるないさー!なんくるないさー!

パンケーキ!!パンケーキ!!パンケーキ!!」

ちびアコちゃん達「シノちゃん凄いななの♪」

女将さん「シノちゃん、これお願いねっ!!」

シノ「はい!!女将さん!!」

シノさんは女将さんの指示でお出かけしてしまいました。

ちびアコちゃん達「寂しいなの……………」!!」

ちびアコちゃん達は何かを思い付いたようです。

〜数日後〜

ちびアコちゃん達「ちびミントちゃん達ようこそなの♪」

ちびミントちゃん達「ちびアコオネエサマ!!よろしくお願いします

なのです♪」

みんなでパネルを作りました。

みんな「出来たなの♪」

【アコチャンホンポ】

はじめます!

〜更に数日後〜

シノ「増えてる!!」

女将さん「なんくるないさー!」

シノ「ちびアコちゃん達?この子達は?」

ちびアコちゃん達「ちびミントちゃん達なの♪」

ちびミントちゃん達「ちびミントちゃん達なのです♪シノちゃん様♪」

シノ《うくん……複雑な気持ち……》

旅館【羽衣】内に【アコチャンホンポ】が設立されました!
さて、何をするのやら……

(つづく)

第八話 ちびアコちゃんいちごパンツをなくす

旅館【羽衣】は、お正月休みで大忙しです!!

シノさんは、てんてこ舞いです……

シノ「これがアレで、アレがこつちで、そつちがソレで……プシュー……」

シノさんはオーバヒートしています……

今回はシノさんの知らない間に起きたちびアコちゃん達のお話です……

ちびアコちゃん達「無いの無いの無いのなの ぐすん…… イチ

ゴパンツが無いなの」

ちびアコちゃん達はみんなお気に入り*の*イチゴパンツを履いています……

何故かですか?ちびアコちゃん達だからです……

ちびアコちゃん達「ちびミントちゃん達、ちびアコちゃん達のイチゴパンツを一緒に探してなの ぐすん……」

ちびミントちゃん達「お姉様達、泣かないでくださいなのです」
ちびミントちゃん達は凄まじいお姉様LOVEセンサーを働かせ

ています……

ちびミントちゃん達「ソコなのです!!」

???「ヒイイイ!!。(。ロ。ノ)ノ」

ちびミントちゃん達「ちびアコちゃんお姉様達のイチゴパンツを返してなのです!!」

サネアツ「俺は、ただ洗濯しただけなんだけどな……」

ちびミントちゃん達「乙女の敵……覚悟なのです!!」

サネアツ「なんでこうなるの~~~~~???」

無事にイチゴパンツをちびミントちゃん達は取り戻しました!!

ちびミントちゃん達「ちびアコちゃんお姉様♥イチゴパンツを取り戻しましたのです!!♥」

ちびアコちゃん達「♥わ〜い♥ちびミントちゃん達ありがとうなの〜?」

キヤツ♪キヤツ♪キヤツ♪

シノ「私が居ない間に何があったのかしら……」

新年早々にお騒がせですね……

(つづく)

第九話 ちびアコちゃんいちごシロップと間違えてワインを飲んでしまう

カナリアの街は季節外れのジメジメした天候によって住民達はなんとかして冷たいモノを求めて奔走しています。

その波は旅館【羽衣】も例外ではありませんでした……

シノ「そう言えば、この前にナツオさんの知り合いのキリエさんの幼馴染の学友さんのタミルさんが開発した【かきごおりましん】を使ってみようかしら?」

ちびアコちゃん達「かきごおり?なの?」

シノ「ユーハングのお祭りで売られる氷を細かく砕いたお菓子よ? 苺シロップもあるわよ♥」

ちびアコちゃん達「苺シロップ♥楽しみなの♥」

くその夜遅くく

女将さん「ジョニー、赤ワインをお願い……」

ジョニー「赤ワインです……ミキによろしくお願いします!!」

女将さん「見かけたら伝えるわ……」

大人の女性の飲み方で赤ワインを飲んだ女将さん……ジョニーは赤ワインをしまい忘れたままテーブルに放置してしまいました!

く翌日早朝く

ちびアコちゃん達「朝なの?♪シノちゃん寝てるなの♪寝かせてあげるなの?♪探検するなの!!」

ちびアコちゃん達探検隊は、短時間のアドベンチャーの末に酒場に放置された瓶を発見しました!!

※ちびアコちゃん達に悪意はありません!!

ちびアコちゃん達「瓶があるなのく中身を確認するなの!!」

んしょ!んしょ!ちびアコちゃん達は瓶の中身をグラスに注ぎました……

ちびアコちゃん達「この色、苺色なの♥?♪!!」

ちびアコちゃん達は赤ワインとも知らずにまっしぐらに訥喚し、ぐびぐびと飲み干しました……

酔いがまわったちびアコちゃん達は、ちびミントちゃん達に、

ちびアコちゃん達「ちびミントちゃん達、苺パンツを履くなの!!

!!!!!」

と、散々な絡み酒をやらかしました……

シノ「ちびアコちゃん達、お酒臭い!」

朝の朝礼でジョニーとシノさんは女将さんに絞られました……

シノ《私は無罪よ~~~~~!!!!!!!!!!!!》

(つづく)

【第十話 ヘレンの森を守って……シノちゃん!!】

カナリアの街は、いつも通りの安定感抜群で安心感バツチリな治安
抜群の最高の安らぎの街になりました……

ドタ!!ドタ!!ドタ!!ドタ!!ドタ!!ドタ!!ドタ!!ドタ!!ドタ!!ドタ!!
!!ドタ!!ドタ!!ドタ!!ドタ!!ドタ!!ドタ!!ドタ!!ドタ!!ドタ!!ドタ!!
!!

ちびアコちゃん達たつぷり『シノちゃん助けてなの~~~~~
~~~~~!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!  
!!ヘレンの森が大変なの~~~~~!!

あまり広くないシノさんの部屋に密集したちびアコちゃん達が  
ぎゅうぎゅう詰めです……

シノ「ちびアコちゃん達!!まずは落ち着いて話を聞かせてくれる  
?」

ちびアコちゃん達「~~~~~なの……!!!!!!!!  
!!!!!!!!」

ちびアコちゃん達の話をもとめると、ヘレンの森を強引に開発しよ  
うとする【イケスカ開発】という業者が既に!!!!ヘレンの森】を焼いて  
伐採の手間ヲタ省く暴挙を行っているのです!!!!!!

シノ「ちびアコちゃん達、少しだけ待ってて……!!」

シノさんは、女将さん『マダム・ルウルウ』を呼びました……

シノ「マダム!!ヘレンの森が……!!」

ルウルウ「はいはい、あなたは私にガドールのユーリアに連絡して  
【イケスカ開発】を足止めして欲しいんでしょう?もう、言って置いたか  
ら安心なさい。後は貴女が決める事よ……暇なら出すわ……」







【ちびアコちゃんと私の生活 ふたたび ヘレンの森  
にようこそ♪】《ちびアコちゃんシリーズ》第四期

第一話【ただいま!!ヘレンの森♪】

【イケスカ開発騒動】で、これまで稼いだをヘレンの森鎮火の為に全て  
注ぎ込んだシノさんとちびアコちゃん達は、ふたたび【ヘレンの森】へ  
帰って来ました……

シノ「ただいま……ヘレンの森……」

ちびアコちゃん達「ただいまなの〜♪」

シノさんは、覚悟してはいたのでしようが……やはり人の温もりを  
覚えてしまったシノさんが、ちびアコちゃん達がいるとは言っても  
【ヘレンの森】で暮らす事をふたたび始めるのは難しいかもしれませ  
んでした……

ちびアコちゃん達

『アコチャンホンポ〜♥』

ちびアコちゃん達「ちびミントちゃん……人間になくれ♥」

ちびミントちゃん《??》

ボンッ!!

ミント「??( )はどこ??私はミント??」

シノさんがエル林の川から水汲みから帰って来ました……  
シノ「あら?あなたはどちら様かしら?」

ミント「私はミント?？」

シノ「知らんがな……!!」

ちびアコちゃん達「この娘はミントちゃんなの♡」

ミント「私はミントなんですね……ホツ……」

シノ「で?ミントは、何か得意な事はあるかしら?」

ミント「うくん……少しヒバリ山に行つて来ます……」

〈7分後〉

ミント「仕留めて来ました……!!」

《瞬殺された美味しそうな熊です……》

シノ「はやっ!!」

ちびアコちゃん達「はやっ!!なの♪」

ミント「途中で野生の苺がありましたよ♡どうぞ♪」

ちびアコちゃん達「わ〜い♡苺なの♡」

こうして、帰るなり早々に人恋しくなりかけたシノさんに不思議な力で現れた……熊殺しのミントさんがお友達に加わりました……

果たしてちびアコちゃん達は、いったいぜんたい何者なのか……

ドキドキのヘレンの森での生活がふたたび始まりました……!!

(つづく)

第二話【最強ミントちゃんの黒いノート】

ヘレンの森でシノさんとミントちゃんとちびアコちゃん達の生活が始まりました!!

ミント「ちびアコちゃんお姉様♡愛らしいお口に苺ジャムが……ミントがお拭きします!!」ゴシゴシ!!!

ちびアコちゃん達「ミントちゃん痛いななの……!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

!!!!!!」

シノ「ふう〜見ているだけで微笑ましくて退屈しないわね〜♪ちびアコちゃん達、少し可哀想かな?」



??」

シノ「ミント……考えちゃ駄目よ……感じるの……」

シノさん……ミントさんはその言葉の主様の道ではミントさんが良く識る世界ですよ……

シノ「ヘレンの森もかなり焼けたわね……皮肉な話だけど焼け野原になっている場所に誰か移り住む所作れるかしら？」

ちびアコちゃん達「シノちゃん……ヘレンの森の長老様にお願いなきやダメなの～!!」

シノ「そうね……ちびアコちゃん達の大切な故郷に勝手な真似は出来ないわ……ちびアコちゃん達……長老様にお会い出来るかしら？」

ちびアコちゃん達「ちびアコちゃん達について来てなの～♪」

ちびアコちゃん達の後を懸命についてシノさんは行きました……

～ヘレンの森長老様の間～

長老様《ほけ～～～》

シノ「エツ!!長老様つてヘレンだったの?」

長老様ヘレン「ここはヘレンの森だよ。ぐう……私もヘレンだよ。ぐう……」

ちびアコちゃん達「長老様!!寝ちやうなの～!!シノちゃん早くお願いしなきゃなの～!!」

シノ「長老様……お願いが……」

長老様ヘレン「いいよー。じゃあ寝るねー。……ぐう……」

シノ「はやっ!!話の中身聞いてないし……!!」

ちびアコちゃん達「シノちゃん、長老様の許可取れてよかったなの～♪」

シノさんとちびアコちゃん達はミントさんの待つ自宅へ戻って来

ました……

顔面に致命傷の正拳突きを喰らい絶命したイノシシが数体横たわっています……

ミント「シノさん!!ちびアコちゃんお姉様♥今日はイノシシ鍋にしましょう♥」

シノ「ミント……恐ろしい子……!!!」  
ちびアコちゃん達「なの〜♪♪♪!!!」

(つづく)

【第四話 ようこそ!!ナツオさんなの〜♥】

シノさんとちびアコちゃん達とミントさんは、ヘレンの森で仲良く暮らしています……

シノ「ヘレンの森の長老様があのヘレンだなんて……アンビリバボーだわ……」

ちびアコちゃん達「なの〜♪」

シノ「ちびアコちゃん達……ヘレンの森出身よね……??」

ちびアコちゃん達「ぐすん……」

シノ「ああ!!泣かないで!!私が悪かったから……ゴメンナサイ!!」  
シノさんはちびアコちゃん達に謝りながらあやし続けました……

???「お邪魔するぞ〜♪」

ちびアコちゃん達「誰なの〜?」

シノ「さっきまで泣いてたのに……ぐすん……」

???「おう!!誰ん家かと思えばシノン家か!!久しぶりだな!!ナツオだ!!イナーシャ!!」

シノ「ナツオさん!!お久しぶりです!!どうしてヘレンの森に?」  
ナツオ「アレシマの都に行く途中で発動機トラブルと燃料タンクの  
損傷が重なってな……この近くに不時着したんだよ……すまんがこ  
こに居させて欲しいんだが……いいかな?」

ちびアコちゃん達「シノちゃん!!ナツオちゃんも一緒に暮らすなの  
♡」

シノ「うん ナツオさん!!いいですよ♪ミントさんもいいかしら  
?」

ミント「ちびアコちゃんお姉様が宜しければ私もいいですよ♡」

ナツオ「お前ら最高だ♡!!!!!!!!!!ぐすん……」

みんな「泣くなく♡!!!!!!!!!!なの♡」

賑やかになりましたね (笑)

ナツオさん!!ヘレンの森によろこそ♪

(つづく)

【第五話 シノさんアコチャンホンポに依頼する】

アレシマの都に向かう途中のナツオさんが、ヘレンの森に不時着し  
ました……

シノさん達はナツオさんを暖かく迎え入れました♪

シノ「ナツオさんをアレシマの都に行かせてあげなくちゃ!!けどヘ  
レンの森に飛行機の部品なんて……そうだわ!アコチャンホンポ♡」

シノ《アコチャンホンポ様、隼一型1機と紫電3機分お願い致します  
♡お代はいちご食べ放題です♡ヘレンの森のシノ》



アコチャンホンポポストに手紙を投函しました……

くヘレンの森夜中く

ちびアコちゃん達「シノちゃんの依頼なのく♥いちご食べ放題なのく♥アコチャンホンポデータベースアクセスなのく♥」

ちびアコちゃんA「カナリアの街に隼一型の部品在庫ありなのく♥旅館【羽衣】女将さんが出品中なのく♥」

ちびアコちゃんB「女将さんに発注なのく♥ちびアコちゃん達なんでもするなのく♥」

くヘレンの森夜明け前く

ちびアコちゃんC「女将さんが発注を受けつけたなのく♥お代は力仕事だけど大丈夫かしら?なの……??ミントちゃん 助けて欲しいなの」

ミント「ミントにお任せあれ♥」

ミントさんはカナリアの街に自力で辿り着き、屈強な男1000人分の仕事を1人で1時間で片付けました……!!

女将さん「あ、ありがとう……助かったわ……これは約束通り隼一型の部品よ!!貴女の頑張りを称えて燃料をオマケにつけたから……ヘレンの森のシノによろしくね。」

ミント「?はい!女将さん!!それでは失礼します!!」  
バビュン!!

くヘレンの森朝く

ちびアコちゃん達《アコチャンホンポですなのく♥》

シノ「はくい♪」

ミント「ご注文の隼一型の部品と依頼者様のご好意で燃料をお付けしていただきました!!」

シノ「アコチャンホンポはやつ!!」

ナツオ「おう!!おはようさん♪なつ!!隼一型の部品??燃料まで??お

前ら……一体??」

ちびアコちゃん達「アコチャンホンポ」なの♡シノちゃんいちご  
食べ放題なの♡」

シノ「ヘレンの許可申請はしたから好きだけ食べてね♡」

ナツオ「これで修理出来る!!イナーシャ!!」

ミント「うすっ!!よろこんで!!」

シノ「何故ミントが……??」

ヘレン「ミントがんばー」

ちびアコちゃん達「♡うま♡うま♡なの♡」

(つづく)

第六話【ナツオさん隼一型を修理します!!】

〜前回のあらすじ〜

ヘレンの川柳に不時着したナツオさんの隼一型を修理する為に  
シノさんは《アコチャンホンポ》に依頼してミントさんが調達しまし  
た……

〜ヘレンの森の原っぱ〜

ナツオ「おっ!!私の隼一型じゃねえか!!無事だったか!!イナーシャ

!! 今すぐ修理してやる!!ありがたく思え!!」

隼一型《は〜い……》

ヘレン「隼一型がは〜い……って言ってるよー。ぐう……」

シノ「そう言えばヘレンは森の長老様なのよね?なんでなの?」

ヘレン「頼まれたー」

シノ「それで?」

ヘレン「いいよー。って言ったよー」

シノ「たまには躊躇いなさい!」

ヘレン「ぐう……」

ちびアコちゃん達「長老様はおねむなの〜？シノちゃんそつとしてあげてなの〜♪」

シノ「解せぬ……」

↳ After several hours

ナツオ「修理完了♪」

シノ「はやっ!!」

ナツオ「疲れた〜!!甘い物か欲しいな……」

ミント「カナリアの街でもらったユー・ハング菓子です……【どら焼き】といひます……」

ナツオ「ありがとうございます!!いただきます!!美味しい♥幸せな味わい深いお菓子だな!!ありがとうございます!!」

その後ナツオさんは隼一型を点検したりメンテナンスをじつくり行つて試験飛行まで実施して漸くアレシマ行きを決断しました……

!!

↳ ナツオさん旅立ちの日

ナツオ「シノ!!ミント!!ヘレン!!それにちびアコちゃん達!!本当にありがとうございます!!また来るよ!!歯々磨けよ♪」

シノ「嵐のような人だったわ……」

ちびアコちゃん達「アコちゃんホンポ」からお届け物なの〜♪」

紫電3機分の部品が届きました……!!しかしナツオさんはもうアレシマの都に飛んじやったあとです……

シノ「もう一度カナリアの街に行くしかないわ!!」

シノさん達一行はヘレンの森からカナリアの街に向かいました……果たして紫電3機を組み立てられる強者が見つかるのでしょうか??

へレン「K e a s e r a S e r r a ……ぐう……」

(つづく)

第七話【久しぶりのカナリアの街 再会のリツタさんは紫電愛な人だった♪】

く前回までのあらすじく

隼一型の修理を終えたナツオさんはアレシマの都に飛んで行きました!!シノさん達一行はアコちゃんホンポに発注した3機分の紫電を組み立てられる人を求めてカナリアの街まで向かいました……!!

くカナリアの街く

シノ「うわくあれから益々発展しちゃってるじゃない!!」

へレン「まじすげー。」

ミント「この前来ましたよ。私……。」

ちびアコちゃん達「♥いちごの香りなのく♥」

ちびアコちゃん達はいちごの香りに誘われてフラフラつられてしまいました。

シノ「ちびアコちゃん達??待ってく!!」

???「リツタ リツタく♥今日のリツタ食材堂の目玉商品ユーハング人もだいすきな【いちご】だよく♥」

ちびアコちゃん達「リツタちゃんなのく♥」

リツタ「♥あら?ちびアコちゃん達♥久しぶりですー♪」

シノ「リツタさん!!ちびアコちゃん達が突然すみません!!いちごください!!」

リツタ「毎度ありツタく♥お店が終わったら私の家に来てくださいね?」

一同「ありがとうございますなのく?」

くリツタ食材堂閉店後く

リツタ「皆さんようこそ!!」

???「隙あり!!」

シノ「ひグツ!!」

リツタ「フツチ!お客様に何してるの!!」

フツチ「お姉ちゃん!!隙だらけだぜ!」

リツタ「フツチ!マイと一緒に遊んでなさい!」

マイ「りっしちゃん大事なお話?」

リツタ「お姉ちゃんの大事なお友達なの……♪おとなしくして  
ね♪」

シノ「いたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた  
たたたっ!!」

リツタ「すみませんでした!!あれは駄目だと封印させていたんです  
が……」

それから、みんなで昔話や自己紹介などワイワイしました……!!

シノ「リツタさん、紫電3機を組み立てられる人を探してるんだけ  
ど誰か心当たりあるかな?」

リツタ「やだなく♪目の前にいるじゃないですか……!!この【紫電  
愛のリツタ】が……!!」

ちびアコちゃん達「リツタちゃん凄いなっ♡あむあむ♡これはさ  
ても美味しいちごなの♡」

シノ「【紫電愛のリツタ】?リツタさん紫電の組み立て方わかるの  
?」

リツタ「勿論です!!紫電愛のリツタにお任せあれ!!」

〜リツタ食材堂臨時休業中〜

リツタは三日三晩の徹夜の突貫工事で紫電3機を組み立ててしま  
いました……!!恐ろしい紫電愛ですな……!!

リツタ「フツチ!しばらく店番よろしくね!!」

フツチ「わかった〜!!」

マイ「りっしちゃん行ってらっしゃい♪」

出来上がった紫電に「リツタ」「ヘレン」「シノ」がそれぞれ乗り込みました!!

ちびアコちゃん達は「ミント」が抱えながら陸路でヘレンの森に向かいました。

〈After several hours〉

驚いた事にヘレンの森の原っぱはミントさんが飛行場にしちやつていました!!

3機の紫電から降りたヘレンが言いました。

ヘレン「ミントまじすげー。」

シノ「その一言で済ましていいのかしら?」

リツタ「あははっ!! (この人達相変わらず規格外だなく?)

ちびアコちゃん達「わくいななの♡」

リツタさんヘレンの森にようこそ!!

次回から新シリーズ開幕です!!

(新シリーズにつづく)

「ちびアコちゃん達と私とみんなでアレシマの都に来ました♪」《ちびアコちゃんシリーズ》第五期

第一話【シノさん御一行様取材される】

↳前回のシリーズまでのあらすじ

紫電3機を組み立てたシノさん達はシノさん、ヘレンさん、リツタさんが紫電でアレシマの都に向かいました。ちびアコちゃん達はミントさんが抱えながら陸路でアレシマの都に向かいました。

↳アレシマの都

ブウーン……キュキュツ!

シノ「ふつやつと着いたわ!!」

リツタ「長時間飛行お疲れ様でした!!」

ヘレン「ぐう……」

シノ「寝るなっ!!」

ヘレン「んあ……着いた??」

リツタ「寝ながら飛行して着陸するとは……」

↳After several minutes

ミント「皆さんお待たせしました!!」

シノ「はやっ!!」

ちびアコちゃん達「目が回るの……」

??「少しよろしいでしょうか?」

シノ「あなたは?」

サクラ【熱血記者】サクラと申します!皆さんは、どちらからいらしたのですか?」

シノ「ヘレンの森からだけど……」

サクラ「ヘレンの森??初めて聞きました!!取材させてください!!」

ヘレン「おなかすいたー」。

ちびアコちゃん達「おなかペコペコなの……」

ミント「すみません……私も流石に食事がしたいです……!!」

シノ「まったく、もう!!」ギョルル!!

シノさんのお腹が盛大に鳴りました!!

サクラ「取材の御礼にそこのお店のパンケーキをご馳走しますよ!!」

みんな《ジュルリ……》

サクラの取材は素朴な疑問からヘレンの森のこれまでの経緯やシノさん達のカナリアの街での出来事、ヘレンの森消火活動などサクラが胸躍らせる要素カナリア沢山ありました……

サクラ「皆さん!! 貴重なお話ありがとうございました!」

ウエイトレスさん「会計でございます……」

セクシーで三つ編みな愛想はあまりよくないウエイトレスさんが淡々と会計を促します。

サクラ「あっ! はい、お会計ですね……」

会計伝票にはサクラさんが信じられない額が記載されています。

サクラ「トホホ……取材費ですね。自腹の……」

シノ「サクラさん、ごめんなさいね。みんな食べ盛りだから……」

サクラ「いえいえ!! 貴重な時間ありがとうございました! では!!」  
颯爽と【熱血記者】サクラさんは立ち去って行きました……

リツタ「今回はおなかいっぱいでリツタ満タンです……」

ヘレン「ぐう……」

ミント「すうすう……」

ちびアコちゃん達「……zzz……zzz……zzz……zzz」

シノ「みんな疲れてたのね……お疲れ様……♪」

サクラさんが宿まで手配してくれていました!!

シノさん達のアレシマの都の一日が終わりました。



シノ「…zzz…zzz…zzz…zzz…zzz…zzz…zzz…zzz…zzz…zzz…zzz」

(つづく)

## 第二話【放たれしミントさんの拳】

〜前回までのあらすじ〜

アレシマの都に着いたシノさん御一行は、熱血記者サクラさんから取材を受けました。御礼に宿まで手配してくれた好意に甘えたシノさん達…そして夜が明けました!!

シノ「ふわあ〜良く寝たわ〜♪」

ヘレン「ぐう……すび〜…zzz…zzz…zzz…zzz」

カン!!カン!!カン!!カン!!カン!!カン!!カン!!

フライパンを叩く目覚ましが鳴り響きます!

リッタ「皆さん!!起きてください!!リッタ リッタ〜♪」

リッタさんは、宿屋さんの厨房を借りてオムライスを作ってくれていました!!

【しでん】オムライスにはケチャップ文字が書かれています。

シノ「リッタは紫電がだいすきなね…!!」

リッタ「はい!!紫電愛のリッタですから!!」

ミント「あれ??ちびアコちゃんお姉様達の御姿が見当たらないです!!」

ガシャーン!!

窓ガラスが割れて紙で包まれた石が部屋に飛んで来ました!

《我々は珍獣紳士ミカヅキである。こちらの珍獣は我々ミカヅキがいただくのである。返して欲しいならばオフコウ山まで一人で来るのである。珍獣紳士ミカヅキ》

ゴゴゴゴゴゴ

ミント「私……ちよつとオフコウ山まで用事が出来ましたので行つてきますね」

シノ「ご……ご安全に……」

ミントさんの気迫にシノさんは圧倒されました……

くオフコウ山ミカツキのアジトく

ミカツキ「本当に一人で来ましたねく♪ご苦労さまでくす!!取り敢えずこの娘を大人しくさせちやつてくださくアダダダダ」

ミント「ちびアコちゃんお姉様は何処ですか……!!」

ドスン!!

ミカツキ一味に腹パンをミントさんがお見舞いしました……

ミカツキ「そんな簡単に言うわけが……」

ミント「ちびアコちゃんお姉様は何処ですか……!!」

ドスン!!

ミカツキ一味はまたまた腹パンをミントさんからお見舞いされました……ミカツキ一味の命に関わるダメージです……!!

ミカツキ一味「我々ミカツキ一味は身体が資本でくす♪今回は見逃してあげ……グヘツ!!」

ミント「二度とちびアコちゃんお姉様の前に現れるな……わかりましたか♥」

もうそこにミカツキ一味の姿は影もありませんでした……

ちびアコちゃん達「ミントちゃんありがとうなのく♥怖かったなの

……」

ミント「ちびアコちゃんお姉様♥ご無事で良かったです♥さあ、シ

ノさんのところに帰りましょう！」

「シノさん達が宿泊中の宿屋」

「ミント」ただいま帰りました!!」

「オムライスはまだホカホカです…!!」

シノ「はやっ!!」

ヘレン「まじうめー。」

リツタ「♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪」

「ちびアコちゃん達」うまうまなの♡」

シノ「平和?なのかしら?」

(つづく)

第三話【完全なるお上りさんなシノさんとマイペースなちびアコちゃん達】

「前回迄のあらすじ」

「ちびアコちゃん達を誘拐した珍獣紳士【ミカツキ一味】達をミントさんが腹パンかましてやつつけちやいました……」

「ミントさんが戻った時、オムライスはまだホカホカでした……」

「シノさんとちびアコちゃん達は、せっかくアレシマの都に来たのだからと観光する事にしました。」

シノ「来た時はいっぱいいいっぱいで見回す余裕が無かったけど、流石は【アレシマの都】ね……都会だわ……!!」

「ちびアコちゃん達」とかいななの?」

シノ「都会の意味わかってるのかしら……??ちびアコちゃん達……??」

「???」「へい!嬢ちゃん!!キミ可愛いね♡僕とそこの酒場で一杯しない?サンキューです!!あげポニテ♡」

「鬱陶しい野郎さんがナンパして来ました。」

シノ「勝手に決めるな!!」  
パシンッ!!

???「イタツ。(。ㄩ??)??何すんだよ!!」

ナンパ野郎を引つ張叩く女性が現れました。

???「アンタ!! σ。ロ。σ何してんだい!!」

???「ナオミ!!これは違うんだ!!信じてくれ!!」

ナオミ「アタシのツレが失礼したね!コイツはアタシがしっかりとつちめるから!!こういう輩に気をつけな!!」

シノ「ありがとうございます!」

ちびアコちゃん達「ありがとうなの♡」

シノさんは、カナリアの街に無かった高層建築物や見た事も無い商業施設に圧倒されました……

所謂、お上りさんな状態です。

シノ「これが都会!!人が多すぎるわね……(困惑)」

ちびアコちゃん達「わくいななの♡」

シノさんとは対象的にちびアコちゃん達は平常運転っぽいです……

シノ「ちびアコちゃん達はブレないわね……」

シノさんは、三番街のブティックに入ろうとしましたが、が……

店員「お客様はまだ当店にふさわしくございません。お引取りください。」

シノ「な!!」

ブティックがシノさんの身なりをチェックして、入店拒否をしてきたのです!!

ちびアコちゃん達「なんで入れないなの?」

シノ「都会の洗礼を受けたのよ ぐすん……」

ちびアコちゃん達「シノちゃん泣かないでなの」

三番街ブティックはシノさんを完全なるお上りさん認定をくだして冷やかし以下とみなしたのでしょうか?

シノさんは、いつかこのブティックに堂々と入店して見せる!と心

に誓いました……

そこへ、視界にスイーツ屋さんが入りました。《いちごパフェ  
ア  
リ》

シノ「ちびアコちゃん達♥いちごパフェ食べない？」

ちびアコちゃん達「♥食べるなの〜♥いちごパフェなの〜♥」

シノさんとちびアコちゃん達は、いちごパフェを美味しくいただき  
ました!!

ちびアコちゃん達「♥さてもさても♥美味しいいちごパフェなの〜  
♪」

シノ「本当にちびアコちゃん達はブレないわね〜♪」

シノさんは、お上りさん扱いを受けた事なんか吹っ飛んじやいまし  
た!!

ちびアコちゃん達は、シノさんをまた知らない内に癒してあげてい  
ました……♥

シノ《ありがとう♥ちびアコちゃん♥》

(つづく)

第四話【ナツオさんと再会するシノさんとちびアコちゃん達】

〜前回までのあらすじ〜

アレシマの都三番街のブティックでお上りさん扱いを受けて門前  
払いされたシノさん。

傷心のシノさんはちびアコちゃん達といちごパフェを食べている  
うちに、心が癒されていました。

ちびアコちゃん達がシノさんを癒してくれていたのです……

【アレシマ戦闘機整備士協会本部】

シノさんとちびアコちゃん達とみんなの前にある施設にはそう名  
付けられた看板が掲げられています。

シノ「ごめんくださいい〜!!」

ナツオ「おう!!久しぶりだな!元気か?」

ちびアコちゃん達「ナツオちゃん♥ちびアコちゃん達元気なの〜♥」

ナツオ「ははっ!ちびアコちゃん達は元気だな♪」 \*???)ノ???)  
ナデナデ

ちびアコちゃん達《エへへなの〜♥》

シノ「ところでナツオさん。私達はヘレンの森から、このアレシマの都まで紫電に乗って飛んで来ました……出来ればメンテナンスをお願い出来ますか?」

ナツオ「目の前に戦闘機置かれて整備点検出来ませんなんてこの私が言うと思ってるのか?」

ヘレン「煎餅まじうめー。ノリユキさんどもー。」ボリボリツ……

シノ「ヘレン??くつろぎ過ぎ!!」

ミント「ハッ!セイツ!テヤツ!」

シノ「ミント??いきなり修行に励むの?!」

リツタ「紫電がいつぱいある〜♥」

シノ「リツタ……あなたまで」

ナツオ「シノ…!!お前さん苦労してるな」

シノ「はい……」

シノさんはナツオさんとひとしきり会話をしました。その合間にナツオさんは、紫電の整備点検を淡々とこなしました。やはりナツオさんは整備士が本業の仕事人さんです。

〜After several hours〜

ナツオ「出来たぞ!」

シノ「ナツオさん。ありがとうございます!」

ちびアコちゃん達「ナツオちゃんありがとうなの〜♥」

ナツオ「ちびアコちゃん達……ちゃんはな〜……(困惑)」

ミント「セイツ!テリヤ!ソイヤツ!」

ヘレン「ノリユキさん。このみたらし団子まじうめー。」

ノリユキ「ナツオさんは、ユーハング菓子に目がないっす！どら焼きもあるっす！」

ナツオ「ぼっかもくん!!あのどら焼きは私にとって置きだ!!」  
ノリユキ「すいやせん！」

ノリユキさんはナツオさんからイナーシャハンドルをぶつ刺されました。

何故かノリユキさんは嬉しそうです……

ヘレン「ナツオさん。このどら焼きもまじうめー。」

ナツオ「嗚呼……」

シノ「ヘレンはこういう娘なんです……」

ミント「ウリヤ！デヤツ！ハイヤツ！」

みんな「ミント??いつまでやってんの？」

ナツオ「ところで今日は何が目的で来たんだ？」

シノ「それは……」

ちびアコちゃん達「忘れちゃったなの……ぐすん」

ナツオ「泣かないで、ちびアコちゃん達……!!わかった。今度私からお邪魔するわ!!宿屋教えてくれ!!」

シノさんは、最寄りの宿屋の場所をナツオさんに伝えました。

ヘレン「ユーハング菓子まじうめー。」

シノ「まだ食ってたんかい！」

ちびアコちゃん達「なのく!!」

(つづく)

第五話【ちびアコちゃん達とカナリアくん達との出会い】

く前回までのあらすじく

ナツオさんを訪ねたシノさん達でしたが、リツタちゃんは紫電♥ミントさんはひたすら修行に没頭…ヘレンさんはノリユキさんからユーハング菓子をもらってまじうめー。とナツオさんにとって置きのどら焼きまで食べちゃいました。

シノさんは肝心な用事を忘れてしまいました。  
見兼ねたナツオさんは、宿屋の場所をシノさんから聞いて後から行く  
と親切にしてくれました。

ナツオさんがシノさん達を訪れるのはまだ先の話です。

シノ「ちびアコちゃん達♪アレシマショッピングモールに行かない  
？」

ちびアコちゃん達「ショッピングモールなの？なんなの？」

実はシノさんも「ショッピングモール」が何か知りませんでした。

シノ「行けばわかるわ♪」

ちびアコちゃん達「わ〜い？なの〜♪」

【A r e s h i m a   s h o p p i n g   m a l l】

シノ「着いたわよ!!デカツ!!」

ちびアコちゃん達「デカツ!!なの〜♪」

アレシマショッピングモール内をウインドウショッピングして  
いたシノさんとちびアコちゃん達でしたがちびアコちゃん達がふと立  
ち止まりました。

ちびアコちゃん達「可愛いなの〜♥」

シノ「アレシマショッピングモールオリジナル商品デザイントキオ

氏【カナリアくん達】ねえ……値段は……」

ちびアコちゃん達「シノちゃん……」

カナリアくん達が購入して欲しそうに此方を見つめている気がし  
てならない……!!

買いますか？

はい↑

いいえ

シノ「お支払いお願いします……」

店員「ありがたやー」

ちびアコちゃん達「カナリアくん達♥よろしくお願いしますなの〜

♥」

シノ「ふふっちびアコちゃん達が喜んでくれるからいいかな♪」



カナリアくん達『オイラカナリアクン!!』  
カナリアくん達は発声機能が搭載されたハイテク技術玩具だった  
ようです……高価な理由がわかりました。

〜私とカナリアくん達とちびアコちゃん達〜

ちびアコちゃん達はカナリアくん達がとてもお気に入りです♥

ちびアコちゃん達「カナリアくん達可愛いなの〜♥シノちゃんあり  
がとうなの〜♥」

シノ「ちびアコちゃん達は無邪気で癒されるわ?」

(つづく)

第六話「シノさんとちびアコちゃん達、のじゃ様ネムさんに道を聞  
かれる」

〜前回までのあらすじ〜

シノさんは、ちびアコちゃん達にハイテク玩具カナリアくん人形を  
買ってあげました……シノさんの懐事情をお汲み取りください……

ちびアコちゃん達「カナリアくん♥おはようなの〜♥」

カナリアくん人形『オハヨウ?ー』

シノ「へえ〜良くできてるわね〜?」

ちびアコちゃん達「シノちゃん!!カナリアくんなの〜!!」

カナリアくん人形『オイラカナリアクン?ー』

シノ「なっ??」

シノさんは、それ以上ツツコミを入れるのをやめました。

↳ After a while ↳

??? 「もし?そこなる御仁……ちと、道を尋ねたいのじゃ〜?」

シノさんは、口調が推測させる年齢層の女性を探しましたがそれっぽいないません……

??? 「見下げて〜♪」

シノ「ひゃんっ!!」

??? 「驚かせてすまぬのじゃ。わしはネムなのじゃ……帰り道がわからないなのじゃ……」

ヘレン「ネムこつちー。」

ネム「のじゃ?」

ネムが、目的地のことを何一つ言っていないにも関わらずヘレンはスイスイとアレシマの都を掻き分けて行きます。

ヘレン「ネム着いたよー。飛行場ー。」

ネム「のじゃ♪ヘレン?ありがとうなのじゃ〜♪」

ちびアコちゃん達「ネムちゃん良かったなの〜♥」

カナリアくん人形『ネムちゃんヨカッタ?ー』

ネム「なんなのじゃ?この面妖な物体は?」

ちびアコちゃん達「カナリアくんなの〜♥」

カナリアくん人形『オイラカナリアクン?ー』

ネム「左様かなのじゃ……ヘレン殿!!世話になったのじゃ。皆も礼にコレを試しに食べて欲しいのじゃ……ではの♥」

古風な感じの口調が特徴的なネムさんは、颯爽とテイクオフしました。

ヘレン「ネムがくれた【どら焼き】まじうめー。」

みんな「勝手に食べるな!!なの〜!!」

(つづく)

第七話【ちびアコちゃん達とちび怪盗団アカツキのちびロイグちゃんとちびモアちゃんとの出会い】

〜前回までのあらすじ〜

ヘレンさんが、ネムさんを飛行場に案内をして御礼のどら焼きを勝手に食べました。

ある日のことでした。

ちびアコちゃん達「今日はシノちゃん達お出かけなの…… ちびアコちゃん達お留守番なの……」

ちびアコちゃん達はシノさんからお留守番をお願いされたのです……

コン！コン！コン！コン！

ちびアコちゃん達「どちら様なの〜♪」

??? 「ロマンはいかがだわ♥」

ちびアコちゃん達「誰なの〜？」

ちびロイグちゃん「私はロマンの使者怪盗団アカツキのちびロイグちゃんよ♥こっちは相棒のちびモアちゃんよ♥」

ちびモアちゃん「ちびモアちゃんです……♥よろしくお願いしますなのです……♥カレーライス食べませんか？作り過ぎました……良かったら……」

ちびアコちゃん達「食べるなの〜♥入ってなの〜♥」

ちびアコちゃん達は、特に警戒心を抱くことなく、ちびロイグちゃんたちちびモアちゃんを招き入れました。

ちびロイグちゃん「ちびアコちゃん達？いいわ♪あなた達見ず知らずの私達を招き入れるなんてもう、ロマンだわ♥」

ちびロイグちゃんは、ちびアコちゃん達に情けを感じたみたいですが、ちびアコちゃん達はちびモアちゃんの『カレーライス』に負けた

のです……

ちびモアちゃん「さあ、たくさんありますよ♡召し上がれ♡」

みんな『さても、さても美味しいカレーライスじゃ♪♪♪』

結局アカツキの二人は、ちびアコちゃん達とカレーライスをたくさん食べると、しつかり洗い物をして帰って行きました。

〈After several hours〉

シノ「ちびアコちゃん達？どうやってカレーライスを……？洗い物までキツチリと……!!あら？置き手紙かしら？」

【《犯行状》♥怪盗団アカツキ ちびアコちゃん達の食欲の胃袋をカレーライスで鮮やかに頂戴しました♥ロマンでしょ♥】

シノ「ちびちゃん達の交流会かしら？」

シノさんは、もうこの手の話に免疫力が着きすぎたのか、特に疑問に思うことはありませんでした。

ちびアコちゃん達「シノちゃん♥【ロマン】美味しかったなの♡」

シノ「ちびアコちゃん達？良かったなの♡」

ヘレン「本当だー。このカレーライスまじうめー。」

ヘレンさんは、余り物のカレーライスを温めて、勝手に食べています……!!

シノ「ヘレン……」

(つづく)

【私とちびアコちゃん達とみんなのアレシマの都に来ました♪】第八話

く前回のあらすじく

ヘレンさんがカレーを食べて「まじうめー。」と言っていました。

ある日突然の事でした……

ヘレン「そう言えば私ヘレンの森の長老だったー。」

ちびアコちゃん達「大事な事忘れちゃダメ?ー」

シノ「私も忘れてたわ……」

その時でした……

???『ヘレンよ……長老職を解く。妖精ちびヘレンちゃんとしてやり

直すが良い……』

不思議な光にヘレンが包まれてしまいました!!

B O M B  
!!!!!!

??? 「マジウメー。」

ちびアコちゃん達「だれ?く?」

??? 「ちびヘレンちゃんだよー。マジウメー。」

ちびアコちゃん達「シノちゃん?ヘレン長老がちびヘレンちゃんになっっちゃった?く!!」

シノ「あなたはヘレンなの?」

ちびヘレンちゃん「ちびヘレンちゃんになってやり直すみたいだよー。マジウメー。」

シノ「トホホ…」  
ちびへレンちゃん「ツマラン。」

(つづく)

【第九話】《最終話》ちびリツタちゃん？です！I♥SHIDDEN

〜前回までのざっくりあらすじ〜

へレンの森の長老へ？へレンさんは謎のチカラでちびへレンちゃんにされました。

シノ「トホホ…ちびアコちゃん、どうしよう?!」

ちびアコちゃん達「ちびへレンちゃんどうする?…?」

ちびへレンちゃん「ついでにリツタもちびリツタちゃんにしてー。」

???『よかろうもん…』

リツタ「えっなんで?巻き込まないで〜!!」

B o m b !!

ちびリツタちゃん「I♥SHIDDEN?です!」

ちびへレンちゃん「ついでにミントもちびミントちゃんにしてー。

よろしくー。」

???「よか…」

ちびミントちゃん「チビアコちゃんオネエサマ♥」

ちびへレンちゃん「へレンの森の神様ありがとー。ぐうー。…zzz

Z」

なんやかんやでシノさん以外のみんなはちびちゃん化してしまいました…!!

シノさんは、ちっちゃくなくなったちびカナリアンズちゃんを自分の紫電に詰め込むと過去の縁を頼りにカナリアの街の旅館【羽衣】を目指してテイクオフしました…?…?…!!

ちびカナリアンズちゃん「わ〜い?—! S H I D E N ! ? —! オネエ  
サマ!?!—! まじねみ—! ?—!—!」

シノ「カオス《渾沌》すぎるわ!!?—!」

【私とちびアコちゃん達とみんなでアレシマの都に来ました!】

(おしまい)

第六期(第二次カナリアの街編につづく)